

# 令和 6 年度事業報告書

公益社団法人 被害者サポートセンターおかやま（V S C O）

## 令和 6 年度事業の状況

### 1 はじめに

当センターは、平成 15 年 11 月 29 日の発足以来、23 年 3 月には岡山県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」の指定、25 年 4 月には岡山県知事から公益社団法人の認定を受け、殺人、傷害、性犯罪、交通事故、DV、ストーカー、児童・高齢者・障がい者虐待などの犯罪被害者等が受けた被害の回復又は軽減に資するために、電話・面接相談、専門家への橋渡し・裁判支援・生活支援・心の支援などの直接支援、自助グループの支援及び犯罪被害者等給付金支給の申請補助など、犯罪被害者支援のための活動を実施している。また、これらの活動と密接不可分である他機関等との連携、支援員の養成・研修及び広報・啓発の活動も展開している。

さらに、近年、性被害の相談が非常に多いことから、28 年度に「性犯罪被害者等支援センターおかやま」を立ち上げ、性犯罪被害に特化した専用電話を設置し、相談支援体制の強化等を図ってきたが、令和 2 年 9 月に名称を「性暴力被害者支援センター『おかやま心』」に変更するとともに、3 年度から県の委託を受け、ワンストップ支援センターとしての更なる相談機能の強化並びに相談窓口の周知拡大等に努めているところである。

### 2 役員等

代表理事	加藤裕司
業務執行理事	片山 文、井上 淳
理事	若林久義、中島豊爾、嶋村 稔、難波 光
監事	森本治雄
顧問	村田吉隆、岡崎 彬、皆木英也、松田 久
協力スタッフ	精神科医：堀井茂男、来住由樹
事務局長	草加成章

支 援 員（令和 7 年 3 月 1 日現在）

犯罪被害相談員 7 名、犯罪被害者等給付金申請補助員 4 名、電話・面接相談員 20 名、犯罪被害者直接支援員 12 名、性暴力被害相談員 6 名、自助グループ支援員 4 名

### 3 主な事項

#### （1）令和 6 年 6 月 15 日 令和 6 年度定時社員総会

令和 5 年度事業報告を行い、同年度決算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録が承認された。また、理事 7 人（加藤裕司、嶋村稔、片山文、若林久義、中島豊爾、難波光、井上淳）、監事 1 人（森本治雄）が選任された。

なお、理事会は原則月 1 回開催した。(4 月 26 日、5 月 22 日、6 月 11 日・15 日、7 月 17 日、8 月 21 日、9 月 18 日、10 月 16 日、11 月 20 日、12 月 18 日、2 月 12 日、3 月 19 日)

6 月 15 日の理事会において、代表理事に加藤裕司理事、業務執行理事に片山文、井上淳を選定した。

公益社団法人移行により、理事会の承認事項が増えたが、財政基盤づくり、広報啓発活動、性暴力被害者のための支援活動等について、活発に議論し、議決している。

## (2) 会員の推移

正会員	令和 6 年 4 月 1 日現在	個人 82 名	団体 2 団体
	令和 7 年 3 月 31 日現在	個人 85 名	団体 4 団体
賛助会員	令和 6 年 4 月 1 日現在	個人 144 名	団体 49 団体
	令和 7 年 3 月 31 日現在	個人 146 名	団体 65 団体

## (3) 表彰状・感謝状の贈呈

日時 令和 6 年 6 月 15 日 (令和 6 年度定時社員総会)

表彰状受賞者 該当者なし

感謝状受賞者 正会員 (個人 5 名) 正会員歴 10 年

賛助会員 (個人 7 名、団体 7) 賛助会員歴 10 年

多額寄付者 (個人 1 名、団体 2)

事業推進協力者 (該当者なし)

## 4 主な事業及び活動内容

### (1) 相談・直接支援事業、普及啓発事業について

岡山県警察本部から、電話相談、面接相談、直接支援、広報啓発業務を受託するため、被害者相談・直接支援等業務委託契約を締結した。

岡山県から、ワンストップ支援センターの運営等を受託するため、性犯罪・性暴力被害者相談支援体制強化事業及び広報啓発業務、県見舞金申請業務等の支援を受託するため、犯罪被害者等見舞金等申請支援及びコーディネート業務委託契約を締結した。また、犯罪被害者等支援のための普及啓発事業を受託するため、業務委託契約を締結し、「犯罪被害者支援講演会」を開催した。

実績は次のとおり

#### ア 相談事業

実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

#### イ 直接支援事業

(ア) 実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

(イ) VSCO 規程により、性暴力被害者のための医療費等支援金として 3 件支給した。3 年度から岡山県性犯罪・性暴力被害者のための医療費等公費支援事業補

助金を活用している。

## ウ 広報啓発事業

### (ア) 岡山県委託事業

#### ・「犯罪被害者支援講演会」

令和6年8月4日(日)ピュアリティまきび(岡山市)参加者78人 x

講演:「東日本大震災の次の日、娘は命を奪われた」

講師:清家 政明 氏(殺人事件被害者遺族)

パネルディスカッション:「これからの犯罪被害者支援について」

・パネリスト 清家政明氏、加藤裕司(VSCO代表理事)

・コーディネーター 片山 文(NNVS認定コーディネーター、公認心理師)

#### ・「おかやま心」事業として、性暴力被害者支援センター「おかやま心」のホームページを開設し、相談窓口の周知や認知度のアップに取り組んだ。また、本年度からメール相談ができるよう改修した。

#### ・「おかやま心」のSNS動画広告を7月から9月にかけて2か月間配信した。

### (イ) 岡山県警察委託事業

#### ・「犯罪被害者支援フォーラム2024inおかやま」

令和6年11月24日(日)ピュアリティまきび(岡山市)参加者85人

講演:「ながらスマホ運転は危険運転 ~あれから8年今も敬太と共に~」

講師:則竹 崇智 氏(交通死亡事故遺族)

コンサート 岡山県警察音楽隊

### (ウ) 岡山市との共催事業

#### ・「犯罪被害者支援を考える市民のつどい」

令和7年2月9日(日)ピュアリティまきび(岡山市)参加者71人

講演:「犯罪被害者遺族の想い」

講師:徳田 さよ子 氏(殺人事件被害者遺族)

対談:徳田さよ子氏、片山 文(NNVS認定コーディネーター、公認心理師)

### (エ) その他の活動

#### ・岡山県「犯罪被害者等施策関係職員研修」、岡山市「犯罪被害者支援に関する職員研修」、くらしき市民講座「だまされないぞ!特殊詐欺の手口と対策講座」、岡山医療福祉専門学校「セクシャリティーとジェンダーに関する健康障害~性暴力について~」、総社市社協犯罪被害者支援講演会「身近に起こる犯罪被害者の現状と被害者支援」、笠岡高校・笠岡工業高校「デートDV予防・啓発について」、貴船原少女苑・広島少年院「犯罪被害に遭うということ」、子どもシェルターモモボランティアスタッフ養成講座「性被害の影響と支援」にて講演・研修会等を開催

#### ・機関誌「いつでもそばに」第20号を発行(2,000部)

#### ・ホームページで、「犯罪にあった方へ」「性暴力にあった方へ」、「活動状況」、「新着情報」、「自治体の被害者支援」、「会員・組織、機関誌」、「VSCOの講師

派遣制度」、「VSCO のテーマソング一窓の外には一」、「入会のお願い」、「寄附のお願い」、等々を掲載

- ・啓発チラシ配布等で、県民や被害者に向けて、講演会・フォーラムの開催や電話相談等を紹介
- ・関係団体や関係機関との連携として、県医師会、県産婦人科医会及び加盟医療機関との連絡会、おかやま被害者支援ネットワーク会議等へ参加
- ・関係団体（者）への広報啓発として、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、町内会等への講話、大学・専門学校、市町村役場等へ機関誌・ポスターを持参し VSCO の活動を紹介

## (2) 支援員等養成研修事業

ア 支援員養成基礎講座・中級講座（岡山県共同募金会と日本財団の助成を受けて実施）

開催回数：基礎講座 6 回、中級講座 6 回

受講者数：11 名（大学生 2 名・一般 9 名）、中級講座 7 名

修了者数：基礎講座 11 名（大学生 2 名・一般 9 名）、中級講座 4 名

新規支援員登録者数：2 名

### 【基礎講座】

開催月日	内 容	参加人数
5 月 26 日	開講式（代表理事挨拶・自己紹介） 犯罪被害者の現状と被害者支援の歴史 VSCO の活動について 講師：支援活動責任者	学生 2 人 一般 9 人
6 月 9 日	岡山県警による被害者支援 講師：岡山県警察本部 警務部、生活安全部 弁護士による被害者支援 講師：岡山県弁護士会 被害者支援委員会	学生 2 人 一般 9 人
6 月 27 日	刑事裁判の傍聴と支援と解説 講師：代表理事・研修委員	一般 8 人
6 月 30 日	子どもの被害（虐待等）の対応について 講師：岡山市こども総合相談所 性暴力被害者のサポート 講師：壺内 昌子（精神科医師）	学生 2 人 一般 9 人
7 月 14 日	最愛の家族の命を奪われた遺族の立場から 講師：交通犯罪ご遺族 女性の被害（DV等）の対応について 講師：岡山県女性相談支援センター	学生 2 人 一般 8 名

7月28日	最愛の家族の命を奪われた遺族の立場から 講師：加藤 裕司 閉講式（代表理事挨拶・学生への修了書交付）	学生2人 一般9名
-------	--	--------------

#### 【中級講座】

開催月日	内 容	参加人数
8月25日	開講式（代表理事挨拶・自己紹介） 支援員採用の説明（VSCO 研修委員長） 犯罪被害者等の支援に携わる者の倫理要綱 講師：VSCO 研修委員 自分自身を知りましょう（心理テスト） 講師：公認心理師	一般 6人
9月15日	電話相談の基礎 講師：VSCO 研修委員 犯罪被害者の心理とその支援 講師：全国被害者支援ネットワーク理事 関根 剛	一般 5人
9月25日	刑事裁判の傍聴と支援と解説 講師：岡山地方検察庁 検察官	一般 7人
10月6日	被害者支援を考える ～精神科医の立場から～ 講師：来住 由樹（岡山県精神科医療センター院長） 電話相談の実際① ～ロールプレイ～ 講師：VSCO 研修委員	一般 7人
10月27日	電話相談の実際② ～ロールプレイ～ 講師：VSCO 研修委員 直接支援の実際① 講師：VSCO 研修委員	一般 3人
11月9日	直接支援の実際②③ 講師：VSCO 研修委員 閉講式（代表理事挨拶・修了書交付）	一般 4人
1月19日	面接 講師：堀井 茂男（公益財団法人慈圭会 慈圭病院名誉院長）	一般 3人

#### 成果と課題

受講者総数11人中、川崎医療福祉大学から2人の学生が初級（基礎講座）を受講し修了証を交付した。若者が被害者支援の大切さを理解しボランティア活動を推進するシステムづくりのきっかけとなった。

一般受講者は、9人全員が初級（基礎講座）を修了し、その内7人が中級講座を受講、4人が全過程を修了した。その内2人を支援員として令和7年度から採

用する予定である。

人材育成には数年を要するため、支援員の高齢化が進む中で、支援員の育成が喫緊の課題となっている。支援員候補者発掘のためには、マスメディアやホームページなどで受講者の募集を広く呼びかけ、毎年養成講座を開催する必要がある。

#### 受講した学生の感想

- ・被害者支援の必要性を改めて強く感じた。
- ・被害者支援員は、“つなげる”だけでなく“つながる”ための支援を行うことが大切だと思った。被害を受けたことへの支援だけであってはならず、元の生活を被害者自らが取り戻せるよう支えていかなければならないと考える。
- ・被害者支援は、一つの機関で完結するものではなく医療と同様に他職種連携が必要であることやそれぞれの役割や専門性について新たに学ぶことができた。
- ・被害者等の置かれている立場を様々な面から捉えることがより良い支援に繋がるということを学んだ。

#### 一般受講者の感想

- ・VSCO は、関係機関を繋ぎ、橋渡しができる重要な存在であり、伴走支援はVSCOだからこそできる支援だと感じた。
- ・被害者をサポートするには、受け入れ、共感、冷静な心が必要だと感じた。
- ・裁判傍聴は気持ちが引き締まる思いがした。裁判の全体の流れが傍聴でき良い経験となった。
- ・傾聴と寄り添いが大事だと痛感した。受講したことを一つずつ活かして行きたい。
- ・被害者支援の難しさを実感した。
- ・被害者支援について、研修が進むにつれて体系的に理解することができ、とても勉強になった。

#### イ 支援員継続研修（日本財団の助成を受けて実施）

実施日：毎月第2土曜日 17:00～19:00

研修内容、参加人数は次表のとおり 回数：11回

基礎知識の習得、事例検討等によりスキルアップを図ることができた。

#### 【支援員継続研修】

開催月日	基礎知識	事例検討・講義等	参加
4月13日	支援に関する情報提供 犯罪被害者等早期援助団体について		12人

	被害者支援における倫理 事例検討	
5月18日	被害当事者の声（交通事故被害者遺族）	12人
6月8日	講演：「刑の執行段階等における被害者等の心情徴収・伝達制度」について 講師：岡山刑務所社会復帰支援統括 ・ 県内の矯正施設 ・ 矯正施設の役割等	13人
7月13日	事例検討 ・ 困難事例に対応するために	10人
9月15日	犯罪被害者の心理とその支援 講師：全国被害者支援ネットワーク理事 関根 剛	14人
10月6日	講演：「被害者支援を考える ～精神科医の立場から～」 講師：来住 由樹（岡山県精神科医療センター院長）	11人
11月9日	研修報告 令和6年度全国研修会参加者（2名） DVDの視聴 「被害者支援センターの一日」（全国被害者支援ネットワーク作成）	8人
12月14日	ロールプレイ 事例検討 ・ 隣人殺人事件	8人
1月11日	裁判支援について ・ 心情の意見陳述と弁論の意見陳述の違い ・ 損害賠償命令制度と民事裁判 ・ 傍聴支援	8人
2月8日	ロールプレイと事例検討 ・ 傷害事件（電話相談、グループ討議等）	7人
3月8日	講演「被害者となってから今日まで」 講師：大崎 峻汰（殺人事件被害者遺族）	17人

ウ 全国ネットワーク等主催の研修（日本財団の助成を受けて実施）

8月27日・28日：東北心理学会第77回大会特別講演・特別シンポジウム  
（仙台市）1名参加

9月7日・8日：中四国ブロック質の向上研修上半期研修会（広島市）1名参加

9月19日・10月3日・10日・31日：フェミニストカウンセリング専門講座2024  
（ZOOM）1名受講

9月28日・29日：第9回性暴力救援センター全国研修会（広島市）1名参加

10月18日～20日：全国犯罪被害者支援フォーラム・秋期全国研修会  
（東京都）4名参加

11月17日：第25回犯罪被害者支援フォーラム（京都市）2名参加

12月16日・17日：支援活動責任者研修（東京）1名参加

3月23日：「被害者学の現在地」出版シンポジウム（川崎市）1名参加

### （3）財政基盤の確立と事務局体制の強化

日本財団の助成を受け、先駆的なファンドレイジング活動としてコンサルタントの指導を受けた経験を生かし、賛助会員、支援自販機の設置、募金箱の設置拡大及びホンデリング、赤い羽根共同募金の推進に努めている。しかしながら、地方経済の長引く景気低迷や少子高齢化の進展などにより、会員数や支援自販機による寄付金は毎年減少している。

寄付型自動販売機については、企業等に設置依頼を積極的に行ってきた。平成25年度3台（48,663円）であったが、県警察や会員・建設会社・自販機メーカーの協力等もあり平成30年度には96台まで増設することができた。しかしながら、最近では自販機の売上収入の減などにより撤去になるケースが増えるなど、62台までに減少してきており、寄付金総額は1,338,488円（昨年度比85,493円減）となった。

ホンデリングについては、気軽に協力してもらえる寄付行為と位置づけ、ホームページへの掲載やチラシを作成して郵便物・フォーラムの配布資料に同封するなど周知を図ってきた。インターネットによる申込みも徐々に認知されるとともに「あした彩」大学生によるホンデリングプロジェクトなどにより、11月30日までに61,214円（昨年度比32,851円増）の寄付が集まった。

募金箱については、2月中に24か所回収し、149,501円（昨年度比35,729円減）の募金を獲得した。

県共同募金会のテーマ募金「地域ささえあいプロジェクト」については、42万円の助成金交付を受けることができた。この助成金は、性暴力被害者支援センター「おかやま心」及び支援員養成講座の運営費等に充当した。

市町村補助金については、毎年要望活動等を行っているが、本年度は、12市（昨年度比1市増）10町2村から総額1,805,836円（昨年度比22,490円増）の補助金を受け、相談事業、広報啓発事業に充当した。

## 5 今後の課題

公益社団法人として13年目を迎えるが、今後も引き続き財政基盤の確立及び事務局を含めた支援体制の充実強化に向けて人材の確保を図る必要がある。

また、県民にVSCOの存在と活動内容を周知し、1人でも多くの被害者等に認知してもらえるよう広報啓発の強化を図る必要がある。

特に、性暴力被害の相談件数が8割以上を占めることから、県内で唯一のワンストップ支援センターである性暴力被害者支援センター「おかやま心」の機能強化、周知拡大を図ることが急務となっている。